

月刊 アカンス ニュース

第44号 2000(平成12年).3

「アカンス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

県内8大学と中国江蘇省の8大学が 複数大学間友好交流協定を締結

トップニュース Top News



林勇二郎学長(前列左から4人目)をはじめ、署名を終えて、にこやかに手をつなぐ関係者
=2月21日、状元楼酒店(南京市)で

本学林勇二郎学長を団長とする江蘇省・石川県大学合同協定訪問団が、2月21日、中国南京市を訪れ、市内のホテルで友好交流協定に調印した。

この協定は、いわゆるコンソーシアム(連合)方式と言われているもので、平成10年度に創設された文部省の補助金事業「留学生交流モデル地域推進事業」の一環として、金沢大学が中心となり、石川県と江蘇省の複数の大学間で学生交流、研究者交流等の拡大と活性化を図る目的で進めてきたものである。具体的な交流は、今後協議し、合意に至ったものから順次進めることになる。

協定締結校

《石川県側》金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学・金沢医科大学・金沢経済大学・北陸大学・石川県農業短期大学・金城短期大学・七尾短期大学

《江蘇省側》南京大学・東南大学・蘇州大学・南京芸術学院・南京経済学院・徐州師範大学・鎮江医学院・南京農業専科大学



江蘇省人民政府省長 季允石氏と会談する林学長
=同日、江蘇省庁で





巻頭言

情報の共有と組織力



事務局長
あつ お
中村 厚生

二月は、ことのほか雪の日が続いた。そんなある週末、職員十数人とスキーに行く機会があり、楽しい一時を過ごした。思えば平成二年、長崎大学に赴任して全くスキーとは疎遠になって以来、丁度十年ぶりのことであった。以前は、職場ぐるみでこうしたスキーやハイキング、旅行などに出掛けることが多かった。最近では、そうしたことも都会地を中心に年々少なくなってしまい、我々年輩者にとってはちょっと淋しい気がしないでもない。

いま、個性を生かす、個性が輝くなど個性を豊かにすることが叫ばれている。が、個を尊重するあまり、無責任で勝手気ままになってしまっただけでは何にもならない。国立大学が大学改革、独立行政法人化問題、事務の一元化等むずかしい問題に直面している昨今であればこそ、それぞれの部局等が教職員の個性を伸ばし、個性を生かしながら一つの目的、目標に向かって組織的に一

体となって、教育・研究や事務を効果的に遂行することが重要になってこよう。そのためには、教職員がお互いに知り得た情報を交換し合い、できるだけ同一の情報を共有することが極めて大切である。それによって組織力が一層発揮され、限られた人員、予算等で大きな成果を上げることも可能となる。情報の独占(ひとりじめ)は害あって益なしである。

組織を重視するということは、一方ではどこかの県警のようにその悪弊が出ないとも限らないが、冒頭の職場ぐるみの旅行などは良い意味での組織力を培ってくれたように思うのだが...

この三月で退職するに当たり、お世話になった皆様方に感謝とお礼を申し上げますとともに、金沢大学がこのむずかしい時期を克服して、さらに発展されるよう祈念する次第である。ありがとうございました。

臨時東海・北陸地区
国立大学事務局長会議を行う

2月28・29日の2日間にかけて、本学を当番校とする臨時東海・北陸地区国立大学事務局長会議が開催された。

当日は、文部省高等教育局杉野剛大学課大学改革推進室長を講師に招き、「国立大学の独立行政法人化問題等について」講演が行われ、同問題に対する他大学の検討状況や学校教育法等改正への対応について協議がなされ、本学を含めた東海・北陸地区の15大学等の事務局長等の熱心な意見交換が繰り広げられた。



杉野室長(前列右から4人目)と本学を含めた15大学等の事務局長等
=2月28日、事務局大会議室で





「地方における法学教育の将来構想」をテーマに 創立20周年記念シンポジウムを開く

法学部は、昭和55年の法文学部分離改組以来の20周年を記念して、2月26日、市内のホテルでシンポジウムを開催し、関係者延べ100人が出席した。

基調講演やパネルディスカッションでは、北陸を中心とする法曹、行政、企業及び各大学関係者から、21世紀これからの法学教育の在り方と指針となる意見が述べられた。



「大学改革と大学院構想の課題」をテーマとした
文部省高等教育局合田隆史大学課長講演の様子
=同上



あいさつする谷本正憲石川県知事
=2月26日、金沢東急ホテル(金沢市香林坊)で

薬学部でFD(Faculty Development)講演会を実施

2月9日、薬学部で、北陸先端科学技術大学院大学の示村悦二郎学長を講師に迎え、「これからの大学教育に期待するもの」と題したFD講演会が開催され、約70人が参加した。

講演は、示村学長の実体験を基にした内容の濃いもので、その軽妙な語り口に参加者は熱心に聞き入り、大学教員としての在り方や授業(講義)への取り組み方など、今後の教育活動に関する実践的な知識を身につけることができた。講演後には、質疑応答も活発に行われ、普段教官自身が疑問に思っていたことが解消できたなど、有意義な講演会となった。



薬学部教官をはじめ、他学部等の教官、大学院生等も集まった講演会の様子
=2月9日、薬学部薬学講堂で

工学部と工学教育協会との共催による 特別講演会を開催

工学部と工学教育協会との共催による特別講演会が、2月23日、樋口博教授(米国・シラキュース大学)を講師に招いて開催された。

「アメリカの大学の教育研究システムについて」と題した講演は、独立行政法人化をはじめ、工学教育の改革、産学共同研究の推進など多くの課題を抱える本学にとって、非常に参考になる内容であり、講演後には、70人以上の参加教職員は、活発な質問・討論を行った。



講演する樋口教授



活発に質問が飛び交った講演会の様子
=2月23日、工学部秀峯会館で



産学交流促進事業 第1回企業訪問会を実施

2月4日、金沢市主催で、産学交流促進事業における“企業訪問会”が行われた。これは、大学の教官が企業の現場を直接見学し、説明を聞くことによって「産学のネットワーク」の構築を目指すもので、これからの2年間、定期的に開催する予定。

第1回となった今回は、共同研究センターや工学部の教官ら7名が澁谷工業株式会社を訪問し、“生の現場”から



率直な意見を聞くことができ、意義深いものとなった。

製造現場を見学する参加者
= 2月4日、澁谷工業株式会社
(金沢市若宮)で

本学初企画！ 学生のための 業界・企業研究会を開く



企業の説明を真剣に
聞き入る参加学生
= 2月9日、総合教育棟で

2月9・10日の両日、全学就職委員会の企画で、全学年を対象とした「学生のための業界・企業研究会」が催され、企業54社から人事担当者及び650人の学生が参加した。これは、学生が将来の進路を考えるためには、就職活動直前のガイダンスだけではなく、1年生からの適切な職業観と目標意識の育成が必要であるとの考えから企画されたもの。

薬学部 “外部評価委員会”を開催

薬学部では、2月12日、井村伸正委員(北里大学)、韓哲圭委員(釜山大学校薬学大学(学部間学術交流協定校))、外7名の委員による「金沢大学薬学部外部評価委員会」を開催し、学部内から約50人が参加した。

評価は、教官の薬学教育研究活動に対しては、良い結果であったが、研究環境が狭隘(きょうがい)であるとの指摘を受けた。また、各委員からの薬学教育研究全般にわたる質問では、特に医療薬学に関する現状の分析と将来への方策について、厳しい質問がなされた。

同学部では、後日、最終的な報告を受けて今後の研究活動等に活用していく予定。



委員の方々
= 2月12日、薬学部会議室で



学部・大学院等に関する
概要説明の様子
= 同上

平成11年度退職予定者に対する “退職者説明会”を開く

2月18日、事務局大会議室で、今年度末退職予定者に対する共済年金や退職手当等に関する説明会が開かれ、



各々の担当者からわかりやすい説明があった。

共済年金について説明
する担当職員
= 2月18日、事務局大
会議室で

平成12年度“二次試験”始まる!



試験後、ほっとした表情で
会場から出てくる受験生
= 2月25日、総合教育棟で

受 験 者 数 等 に 関 する デ ー タ	受験者総数	3,838人	(実質倍率 2.90倍)
	[昨年 “	3,986人	(“ 2.82倍))
	志願者総数	4,017人	(倍 率 3.03倍)
	[昨年 “	4,178人	(“ 2.95倍))





キャンパス・セクハラ防止の講演会

2月23日、「セクハラ防止に関する講演会」が催された。講師は、キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク東海ブロック事務局の北仲千里氏で、「キャンパス・セクハラ防止と対処」をテーマに、実際に大学で起きた事例の紹介や対処方法などを織り交ぜて、注意すべきことから今後の課題を分かりやすく話した。集まった約100人の教職員・学生からは、身近な問題とあって、リアルな質問も飛び出した。また、講演会終了後は、セクシュアル・ハラスメント相談員を集めての研究会も開催され、相談員としての心構えなどを確認した。



ホワイトボードを使って分かりやすく説明する北仲講師
= 2月23日、事務局大会議室で



「地域に開かれたキャンパス構想」について説明する澤本清史建築課長
= 2月20日、大学教育開放センターで

金沢大学「角間の里山自然学校」ワークショップを開催

金沢大学「角間の里山自然学校」では、学習プログラムの開発研究の一環として、2月20日に大学教育開放センターでワークショップを開催した。

これには、学内関係者のほか学外有識者、地元市民など約50人が参加、学習プログラムの開発や運営方法等について、熱心な意見交換が行われた。

角間川通水式を挙行

総合移転第 期事業の角間川改修工事が完成し、1月27日に林勇二郎学長をはじめ、約40人の関係者の出席を得て、通水の式典が行われた。

この角間川改修工事は、 期キャンパスと 期キャンパスを分断する大きな谷間にあったものを東側に約60m移動し、底高を約15m底上げして土地の有効利用を図り、建物用地等を確保するとともに、下流の調整池と河辺の自然



環境の再生に配慮した地域に開かれた水辺空間として整備された。

水が流された角間川の様子
= 1月31日、総合移転第 期用地内(角間)で

本学へのお客さま(2月)



同済大学(中国)大学院長(写真右から3人目)
= 2月18日、学長室で



スポーツ成績優秀者を学長表彰

2月9日、スポーツ成績が優秀な学生に対する学長表彰が行われ、文学部4年の世古真知子さん(第54回国民体育大会秋季大会ライフル射撃競技(成年チームライフル女子立射20発の部優勝))の功績を称えて林勇二郎学長から表彰状とメダルが贈られた。その後、指導教官(馬替敏治工学部教授)を交えて、和やかに懇談が行われた。



林学長に“国体”での表彰状を笑顔で見せる世古さん
=2月9日、学長室で

白梅寮で追いだしコンパ!

このほど、白梅寮で、今春卒業する寮生の追いだしコンパが行われた。

食堂には心づくしのご馳走が並べられ、寮生をあげてのお祝いとなった。卒業する4年生は、代々先輩から受け継がれている替え歌を身振り手振りも賑やかに大合唱して、寮生活を最後まで楽しんだ。



パーカー着用がお決まりとなっていて、替え歌を楽しげに歌う寮生
=1月25日、白梅寮で



KUPIS (キューピース) **情報**

金沢大学ホームページ

本学「公式ホームページ」の面白い情報を紹介するコーナーです。

クリック順

トップページ



国際交流情報

国際交流情報のページが新しくなった。
各種事業の募集について、簡単な手続の説明が書かれていたり、同ページを担当している国際交流課ならではのデータが公開されている等、耳寄り情報が提供されている。また、各種事業を実施している団体等のホームページへのリンクも充実している。さらに、同ページ内の「国際交流課からのご案内」ページには、最新の国際交流に関する様々な情報が随時更新されており、大変便利。

アドレスは — —
<http://www.kanazawa-u.ac.jp>

その11

国際交流情報



「国際交流情報」のトップページ





教育学部附属高等学校 榎田豪利教諭 「第37回越馬徳治科学賞」受賞

優れた理科教員を表彰し、科学教育の振興を目的とする「第37回越馬徳治科学賞」の受賞者に本学教育学部附属高等学校の榎田豪利教諭が選ばれ、2月15日、県教育センター(金沢市高尾町)で表彰式が行われた。今回の受賞は、コンピューターを利用した化学教材の開発が認められたもの。



か し た ひ で と し
榎田豪利 氏
(教育学部
附属高等学校教諭)

4月の組織改革に向けて準備中！

「契約事務等実施準備室」を設置

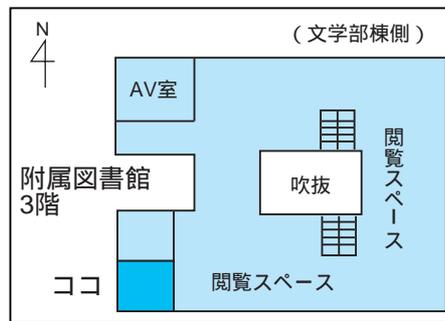
本部棟横 アカサス インターフェイス側)に、2月1日、契約室設置に係る諸準備のため、契約事務等実施準備室が設置され、関係者によって看板が掲げられた。



「50年史編纂室」が移転

4月からの組織改革に先立ち、事務局6階にあった50年史編纂室が、2月17日、附属図書館中央館(角間)3階(右図)へ引越した。
なお、電話番号等は、従来のまま。

(関係記事は8ページ)



看板を掲げる関係者。右から中村厚生事務局長、丸山彰経理部長、中村義孝契約事務等実施準備室長。=2月1日、契約事務等実施準備室前で

附属図書館中央館(角間)の貸出規則が4月1日から変わります

詳しくは、中央館サービスカウンター(076-264-5214)または附属図書館資料サービス係(076-264-5211)まで。

利用者	貸出冊数	貸出日数	更新 (貸出期限の延長)	延滞の罰則
学内の 全利用者共通	図書・雑誌 計10冊まで (図書にはAV資料 を含む)	図書は3週間	2回まで (予約が入っている 場合は不可)	貸出期限を過ぎた場合は、 日数制で貸出禁止
		雑誌は3日間	できません	

編集後記

3月。そろそろ人事異動のシーズンか・・・なんとなく周囲にも、期待と不安の入り交じったなんとも言えない空気が漂う。恐ろしい。

巻頭言をご覧いただいてもお分かりのとおり、中村厚生事務局長も本学を去られる。

かく言う私も本紙に携わるようになって早3年。今年度最後のニュースであるが、私、最後のニュースかもしれない。「継続は力なり」と言う。当初に比べ、少しは進

歩したのだろうか。

まだ間もない頃、ある上司から「広報が楽しくなくなったらすぐ言いなさい」と言われた。「広報は伝える側が楽しんでなかったらおしまいだ」と。その心持ちだけは、このまま自分が居座るにしても、次の担当者に替わるとしても、引き継ぎたい。一番大事なこと。楽しんでやること。これに尽きる。ただし、無理は禁物ということか。

(黒田)



外国人留学生スキー講習会・交流事業 ゲレンデを颯爽と!

2月18・19日の両日、「外国人留学生スキー講習会・交流行事」が尾口村で実施された。

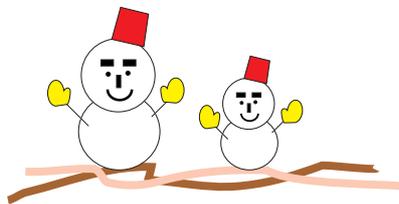


漂う雰囲気はすでにベテランのよう!?



初めてのスキーに大はしゃぎ

山の上の眺めは最高



新事務組織の概要

平成12年度から次のとおり、事務組織の設置、改廃を行うことになりましたので、その概要をお知らせします。

【事務局】

「庶務部」及び「庶務課」の名称を「**総務部**」及び「**総務課**」に変更。

産学連携等の推進、大学改革、情報公開等への対応等、新たなニーズに対応するため、総務部に「**研究協力課**」及び「**企画広報室**」を、経理部に「**契約室**」を、学生部に「**共通教育室**（庶務部企画室を改組）をそれぞれ設置。施設部に既存施設の利活用等を図るため、学内措置により「**FM推進室**」を設置。

【部局】

部局の事務組織は、原則として、「**総務係**」及び「**学務係**」の2係体制。

総務係

部局庶務関係事務(教授会、各種委員会、サービス関係、勤務時間管理等の事務)と会計関係事務(予算管理、予算要求、国有財産管理、物品請求手続き等の事務)を担当。

学務係

部局の学生関係事務(学生募集、教育課程、履修指導、学籍管理等の教務などの事務)を担当。

教育学部附属学校事務部は、「**教育学部事務部**」に一元化。

薬学部とがん研究所の事務部を統合し、「**薬学部・がん研究所事務部**」を設置。

大学院自然科学研究科に独立した事務組織として、新たに「**自然科学研究科事務部**」を設置。

平成12年3月17日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「**金沢大学ホームページ** 愛称「**KUPIS**」(キューピース)」
(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。
本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。

